未来の伊豆半島ジオパークについて みなさまからの声や思いを募集します。

伊豆半島ジオパーク　一〇年間のあゆみ

2011
- 伊豆半島の 13 市町をエリアとする伊豆半島ジオパーク推進協議会設立
- 伊東市の小学校でジオ学習はじまる
- 伊豆半島ジオパークについて学び案内するためのジオガイド養成講座が始まる

2012
- 南伊豆に伊豆半島第一号ジオパークビジターセンターが開館
- 伊豆半島ジオパークが日本ジオパークに認定される
- 伊豆半島ジオパークをめぐるための手掛かりとなる公式ガイドブックを出版
- 伊豆半島ジオパークを楽しみながら学ぶジオ検定 3 級スタート

2013
- 清水町・長泉町が加わり構成市町が 15 に

2014
- 地域の人々とのワークショップを経て 4 年間の基本計画を策定

2015
- 交通事業者や金融機関など、民間企業と相次ぐ連携協定
- 伊豆半島に関する研究を支援するための学術助成制度を創設
- 応援会員・サポーター制度を設け、ジオパークの取り組みを身近に共有できるようにした
- ジオパークがユネスコの正式事業となる

2016
- 毎回場所を変えて伊豆半島を駆け巡るジオロゲイニング大会スタート。初回伊豆高原
- 伊豆半島ジオパークを包括的に学べるジオパークミュージアム「ジオリア」が修善寺に開館

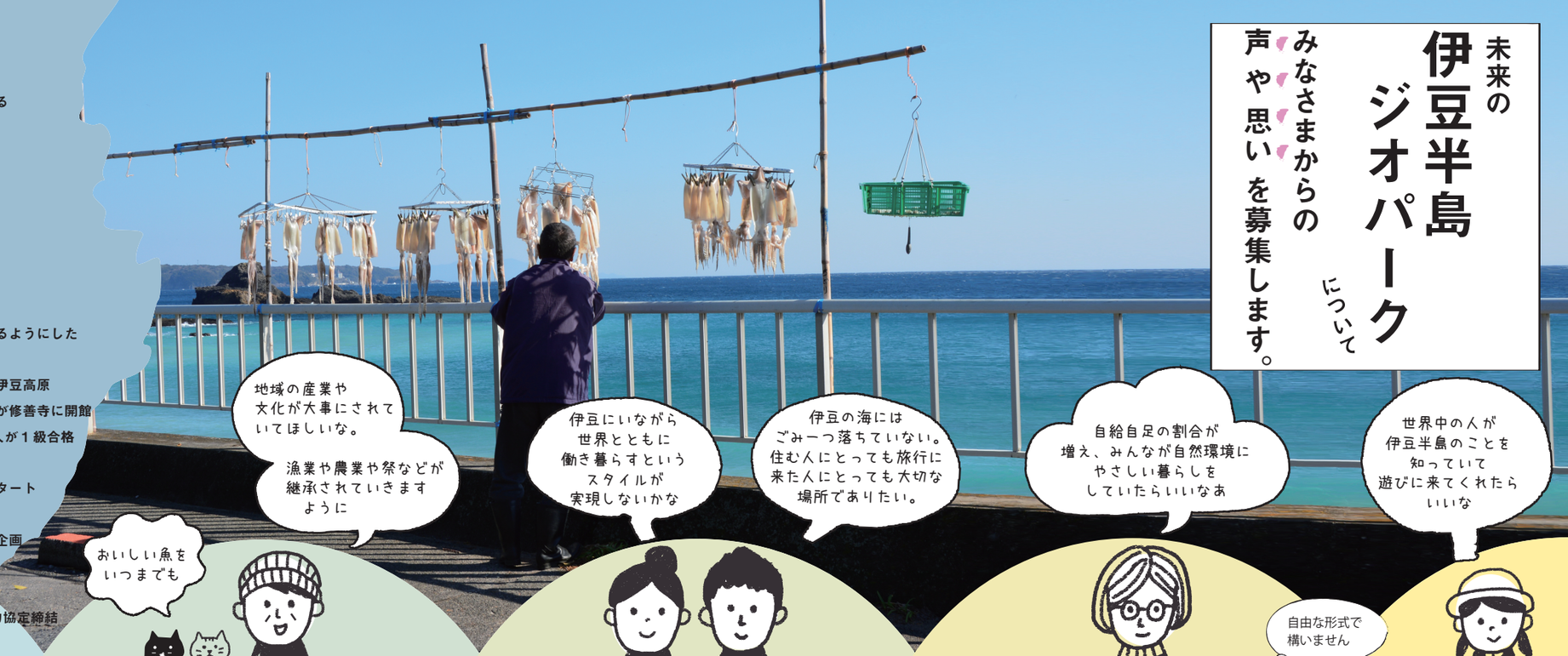
2017
- 3 級では飽き足らない人のための「ジオ検定 1.2 級」スタート。目下毎年 1 人が 1 級合格
- ジオ教育の今を伝える「教育通信」を発行。各学校に配布
- 子どもたちにジオサイトを知ってもらうための「こども絵画コンクール」スタート

2018
- 伊豆半島がユネスコ世界ジオパークに認定される
- シニア世代から子供たちへ牛乳パックを通じて知恵を継承する「牛乳小話」企画

2019
- 天城湯ヶ島の旧湯ヶ島小学校に静岡大学との共同施設「あまじお」オープン
- ジオサイトを整理し、さらに生態サイト、文化サイトなどを追加
- インドネシアのチレトゥー- パラプハンラトゥユネスコ世界ジオパークと協力協定締結

2020
- 持続可能な地域観光の形を実現するための e-bike コースづくり
- 静岡ガスと SDGs を盛り込んだ連携協定を結び、共同でイベントを展開

2021



数字で見る現在の伊豆半島ジオパーク▶▶▶▶▶▶　▶サイト数 275 箇所　▶ビジターセンター数 15 か所　▶ジオ学習実施校数 54 校　▶ジオガイド 194 人　▶応援会員 145 社　▶サポーター 242 人　▶ジオ検定受験者数延べ 4736 人　▶▶▶▶▶▶

伊豆半島ジオパークに認定されてから、2011 年 3 月に発足した伊豆半島ジオパーク推進協議会は 10 年前、2011 年 3 月に発足しました。翌年 9 月に伊豆半島は日本ジオパークに認定され、2018 年 4 月にはユネスコ世界ジオパークになりました。

ジオパークとは大地が育んだ貴重な資産をもつ地域が、その保全と活用によって経済的にも文化的にも発展し、結果として持続可能でより良い地域となるための活動のことです。

それを実現するために、協議会では 2014 年に伊豆半島が目指す次の５つの方向性を定め、これにしたがって運営をしてきました。

- **伊豆半島に誇りを持つ「伊豆人」を育む**
- **自然の恵みとそこから生まれた文化の保護・保全**
- **災害とともに生きる知恵や文化を後世に**
- **住みやすく、また訪れて良い環境づくり**
- **持続可能な運営をするための連携強化**

未来

そして今協議会ではこれからの未来の指標となる伊豆半島ジオパークの基本計画を策定しています。未来の伊豆半島ジオパークは、どんな場所になっているでしょう？私たちの住む地域を作っていくのは私たち自身です。

この機会により多くの方の思いを反映させたく、みなさまからの声を募集します。伊豆半島のこれからの保全、教育、防災、地域振興、ツーリズム、SDGｓなどについて、こうしたい、こうありたい、という声をお寄せください。

▶▶▶みなさまの声や思いをお寄せください

応募先

伊豆半島ジオパーク推進協議会
FAX：0558-72-1355
e-mail：info@izugeopark.org
応募フォーム：QR コードはこちら▶
https://pro.form-mailer.jp/fms/506f9a0d163376

応募締め切り 4 月末日　締め切り後に届いたご意見も参考にさせていただきます

伊豆半島ジオパーク推進協議会
静岡県伊豆市修善寺 838－1
電話 0558－72－0520
https://izugeopark.org